

長野県人材育成ニーズ調査結果（概要）

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の基幹産業である製造業、建設業等の各企業において、必要とされる人材及び求められる技術・技能・知識について把握・整理を行う。

また、県内高校生及び高校進路指導担当の工科短期大学校及び技術専門校に対する訓練ニーズを把握する。

(2) 調査時期 平成 27 年 5 月 ～ 6 月

(3) 調査方式 標本調査

(4) 調査対象等

① 企業ニーズ調査：6 業種（製造業、建設業、印刷業、情報通信業、自動車整備業、福祉・介護関連業）に属する県内 4,000 事業所

回収事業所数 1,572 事業所、回収率 39.3%

② 高校生調査：県内高校 3 年生（定時制、多部制は 4 年生）の全学級から各 4 人

回答者数 2,052 人

③ 高校進路指導担当調査：長野県内の公立高校、私立高校の進路指導担当者 102 人

回答者数 95 人、回収率 93.1%

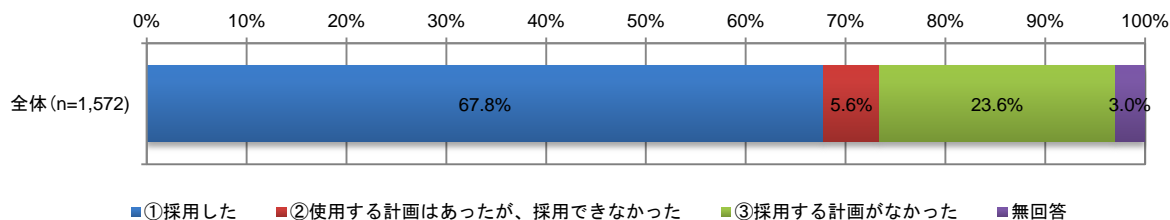
2 調査結果の概要

【企業ニーズ調査】

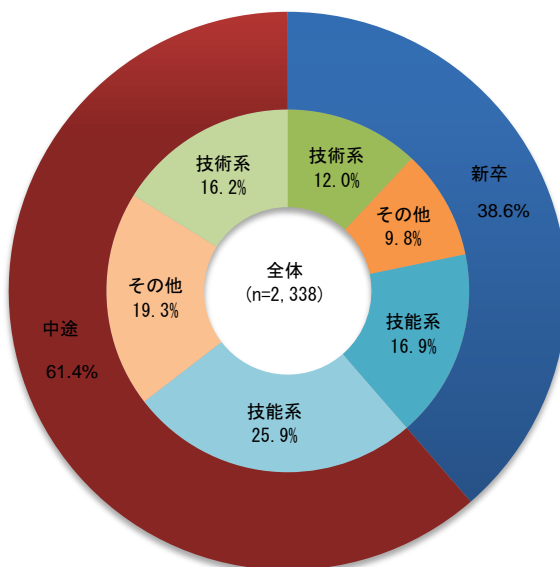
I 事業所における採用・人材育成等の状況

1 採用の状況について

- 採用状況については、過去3年間に人材を採用した事業所は約7割となっている。

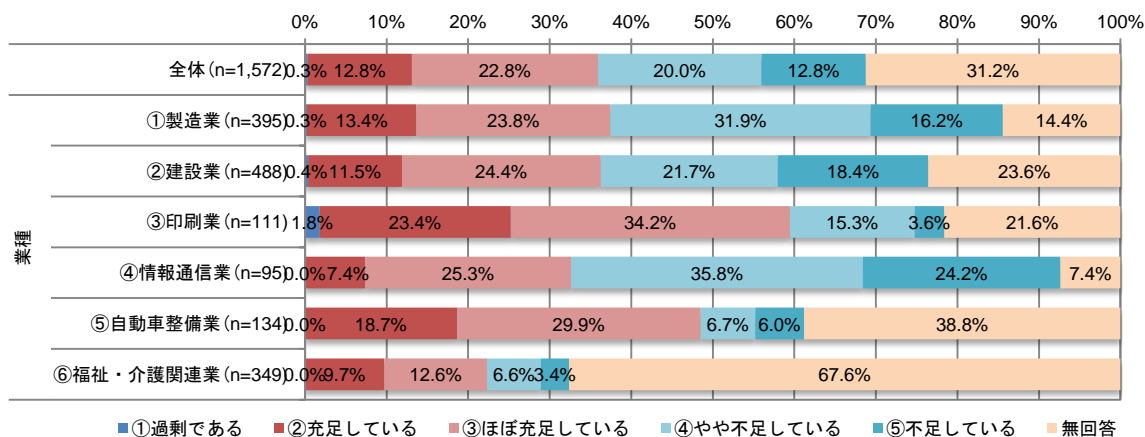


- 採用した事業所の約4割が「新卒」、約6割が「中途」となっている。
- 採用した職種としては、技術系が全体の約3割、技能系が約4割となっている。

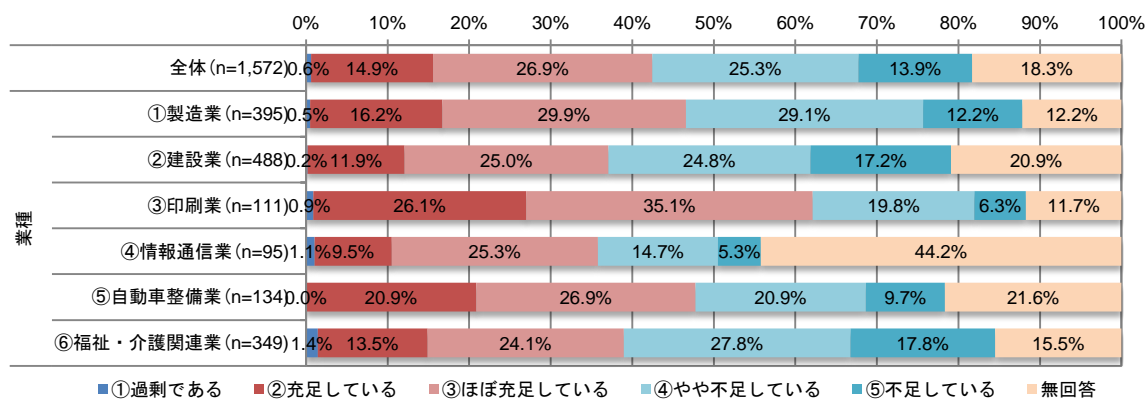


2 技術系・技能系社員の充足状況について

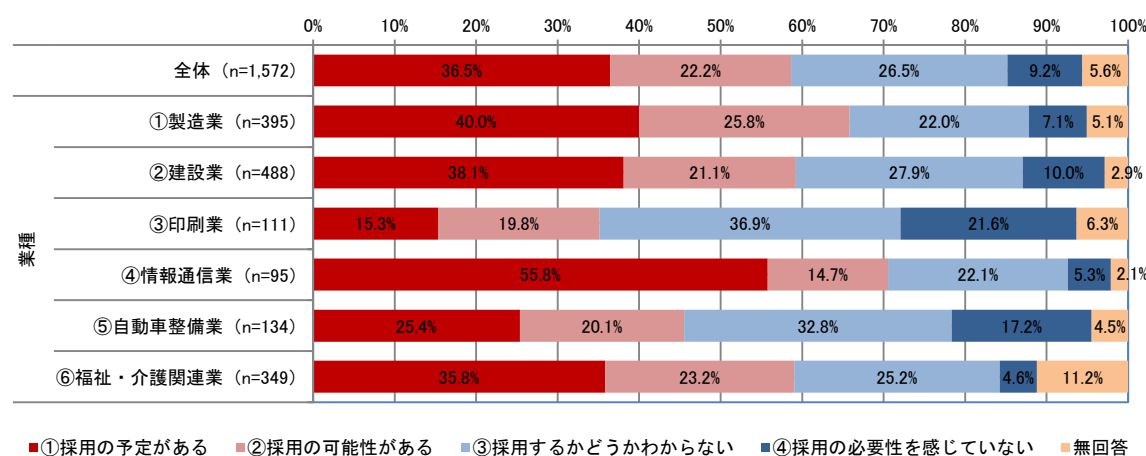
- 技術系社員については、約3割が不足していると感じている。



- ・ 技能系社員については、約 4 割が不足していると感じている。

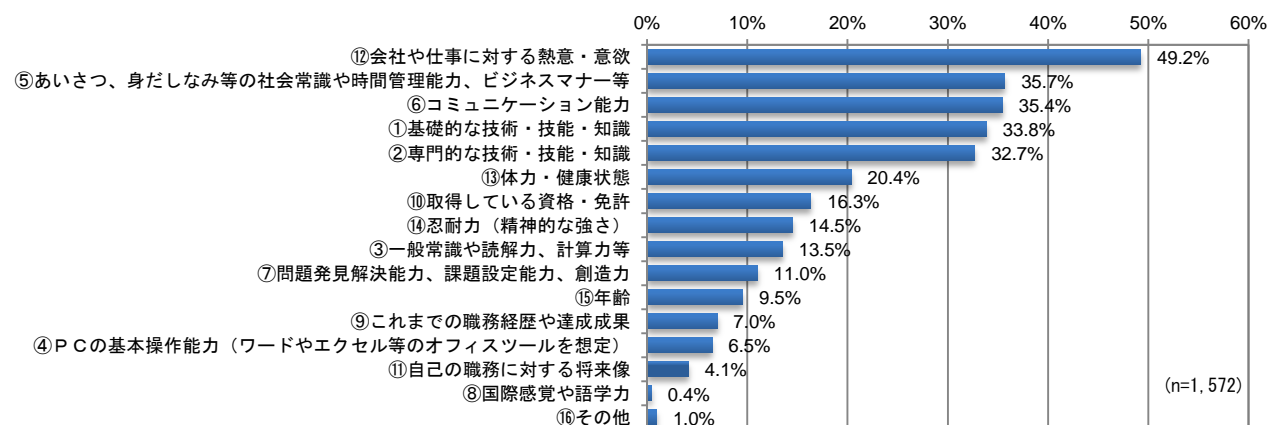


- ・ 今後 5 年間で技術系・技能系社員を採用する予定、または、採用の可能性がある事業所は全体の約 6 割となっている。



3 採用時に、技術系・技能系社員に求めるもの

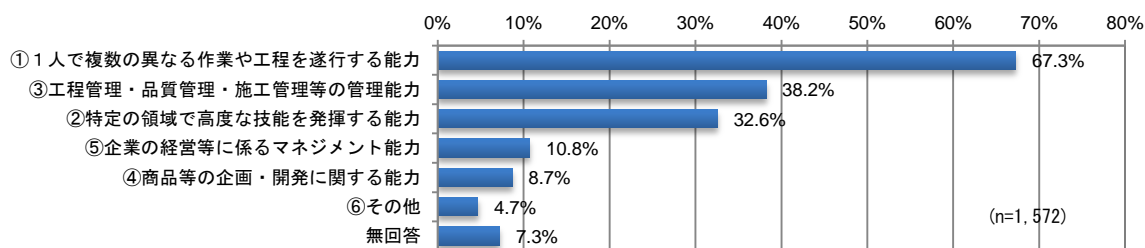
- ・ 採用時に重視する点としては、「会社や仕事に対する熱意・意欲」という回答が最も多く、次に、「あいさつ、身だしなみ等の社会常識や時間管理能力、ビジネスマナー等」、「コミュニケーション能力」となっている。



- ・ あらかじめ身につけていることが望ましい技術・技能・知識は、製造業では「材料や工作法、電気・電子等に係る基礎知識」、建設業では「基本的な施工技術」、印刷業では「DTP操作」、情報通信業では「アプリケーション開発」、自動車整備業では「2級自動車整備士」、福祉・介護関連業では「介護福祉士（ケアワーカー）」が最も多い。

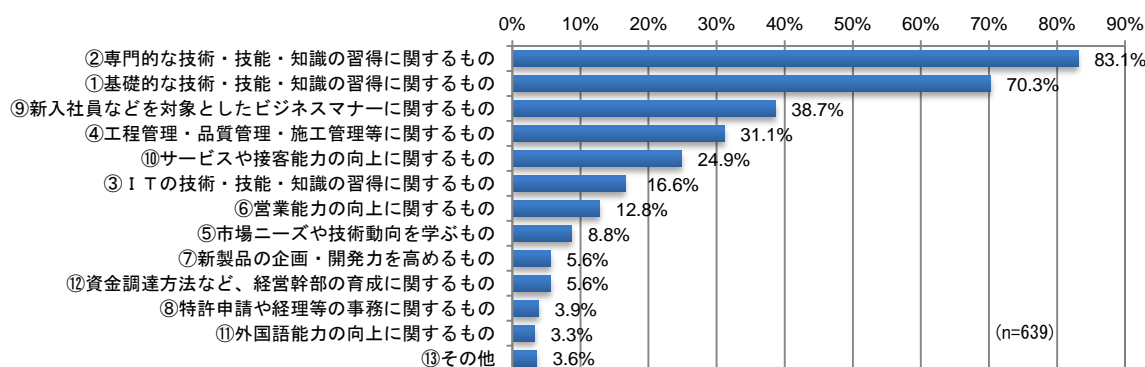
4 採用後の人材育成について

- 採用後、社員に身につけさせたい能力は、「1人で複数の異なる作業や工程を遂行する能力」が最も多い。

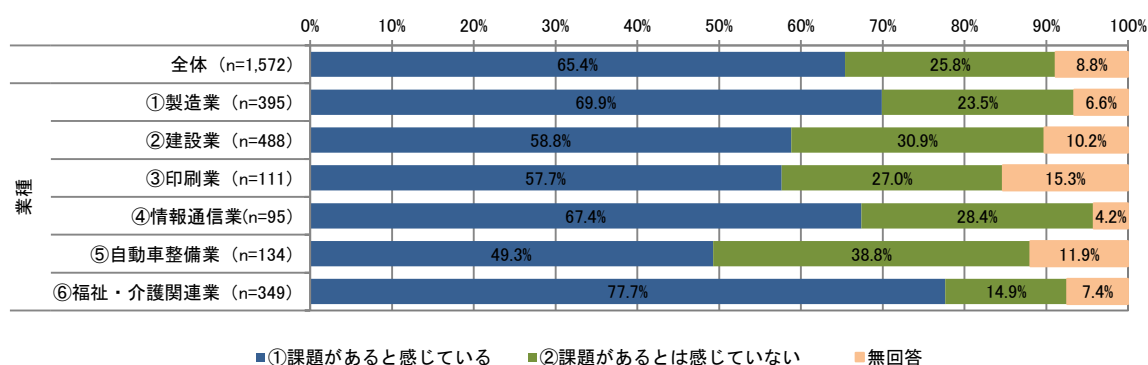


- 技術系・技能系社員を育成・確保するための取組は、「OJT（業務内教育）」が約6割と最も多い。また、今後の取組としては、「OJT（業務内教育）」、「必要な技術・技能・知識を持っている人材の中途採用」が約半数となっている。

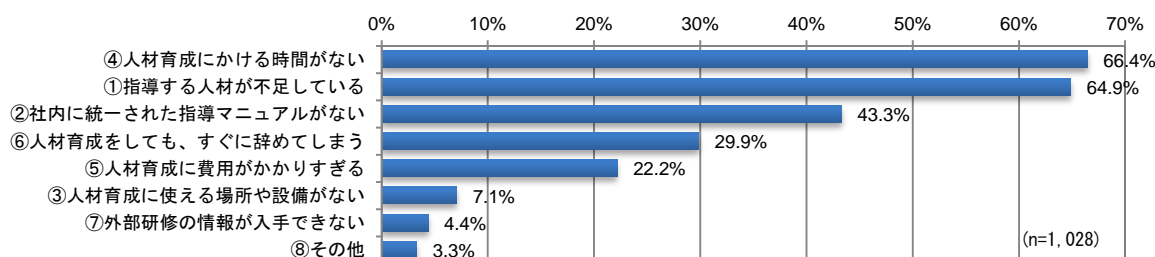
- 「Off-JT（業務外教育・社外研修）」として実施している内容は、「専門的な技術・技能・知識の習得に関するもの」が最も多い。



- 人材育成の取組については、課題があると感じている事業所は約7割となっている。

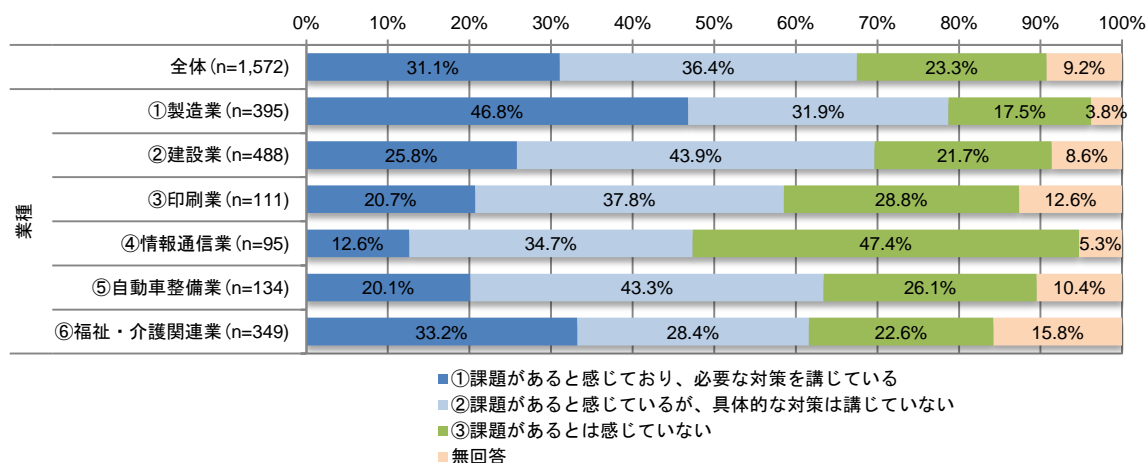


- 感じている課題としては、「人材育成にかかる時間がない」、「指導する人材が不足している」という回答が多い。

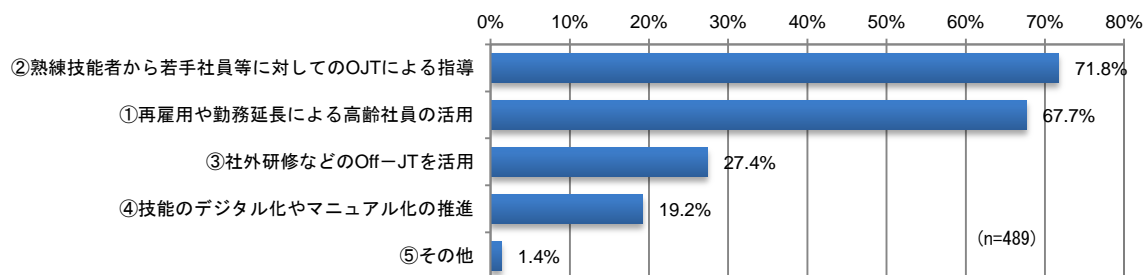


5 熟練技能の継承について

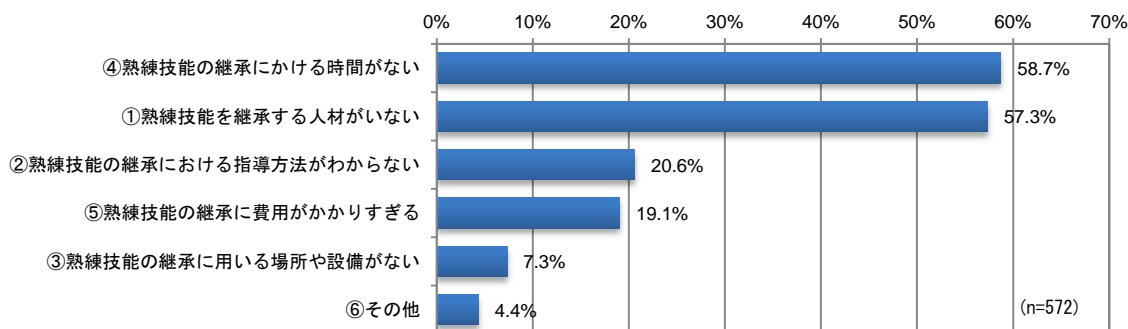
- 熟練技能の継承については、課題はあるが具体的な対策を講じていない事業所が約4割、課題があると感じて必要な対策を講じている事業所が約3割となっている。



- 講じている対策としては、「熟練技能者から若手社員等に対してのOJTによる指導」、「再雇用や勤務延長による高齢社員の活用」という回答が多い。



- 必要な対策を講じることができない理由としては、「熟練技能の継承にかかる時間がない」、「熟練技能を継承する人材がない」という回答が多い。

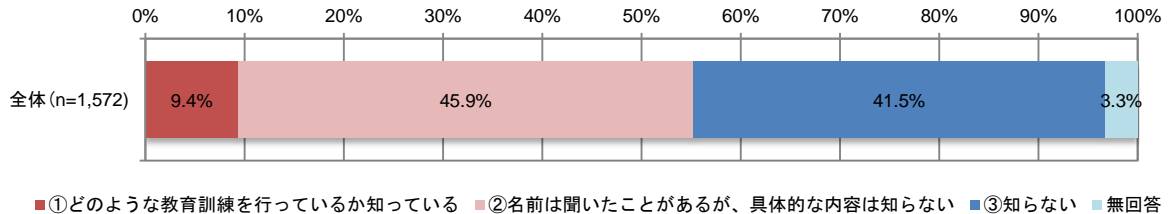


II 長野県工科短期大学校・長野県技術専門校

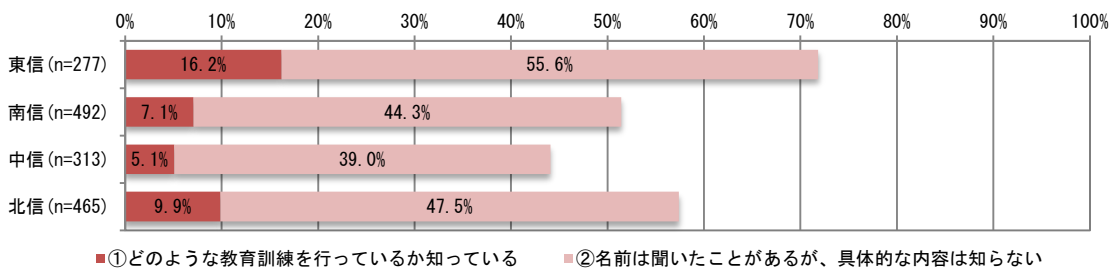
1 長野県工科短期大学校について

(1) 長野県工科短期大学校（上田市）

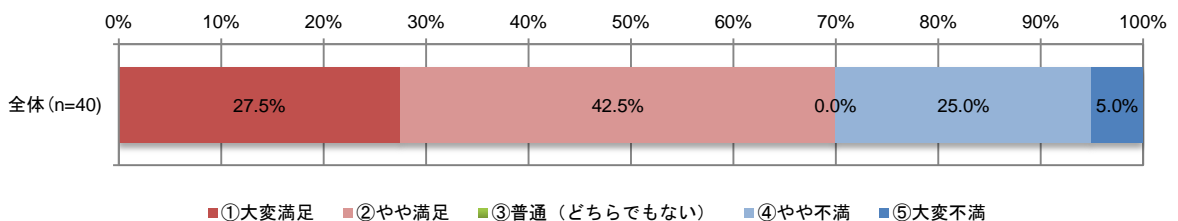
- 「どのような教育訓練を行っているか知っている」は約1割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」は約5割、「知らない」は約4割となっている。



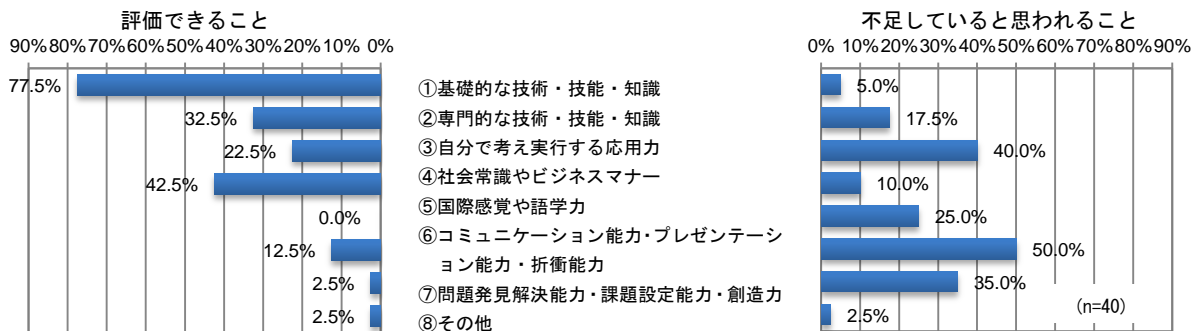
- 「どのような教育訓練を行っているか知っている」、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」の回答合計でみると、東信では約7割、北信では約6割、南信では約5割、中信では約4割となっている。



- 採用した卒業生に対しては、7割の事業所が「大変満足」、「やや満足」と回答している。

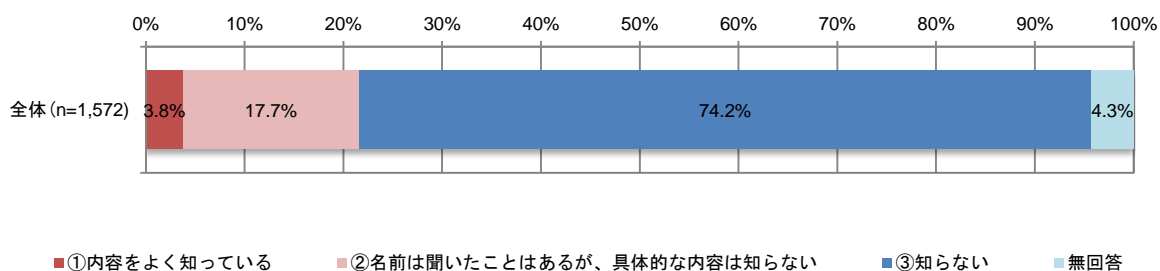


- 卒業生について評価できることは、「基礎的な技術・技能・知識」が約8割となっている。
- 卒業生について不足していると思われることは、「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・折衝能力」、「自分で考え実行する応用力」となっている。

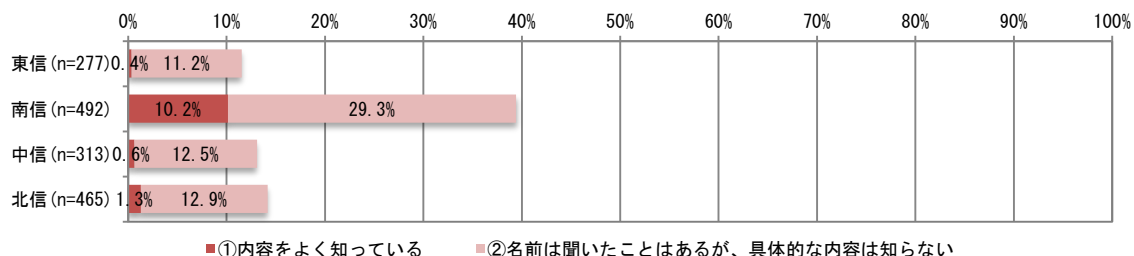


(2) 長野県南信工科短期大学校（上伊那郡南箕輪村）

- 「内容をよく知っている」が3.8%、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約2割、「知らない」は約7割となっている。

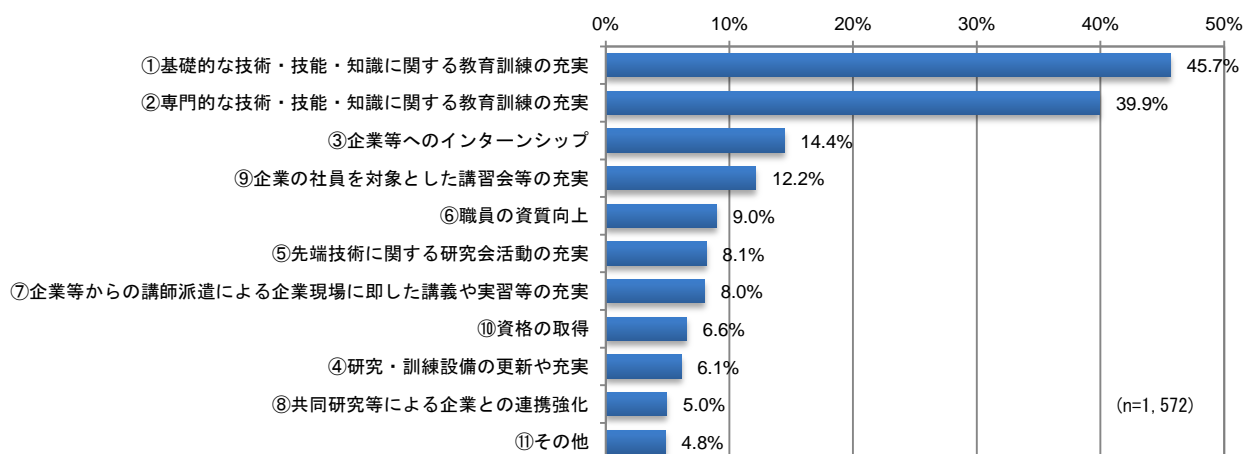


- 「内容をよく知っている」、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」の回答合計でみると、南信では約4割となる一方、東信、中信、北信では約1割となっている。



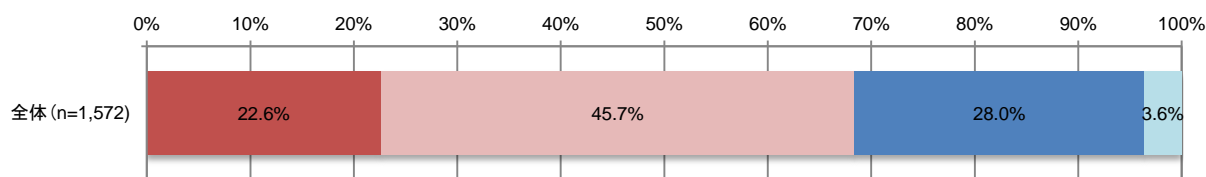
(3) 長野県工科短期大学校全体

- 今後、積極的に取り組んでほしいことは、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」と「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」という回答が多い。



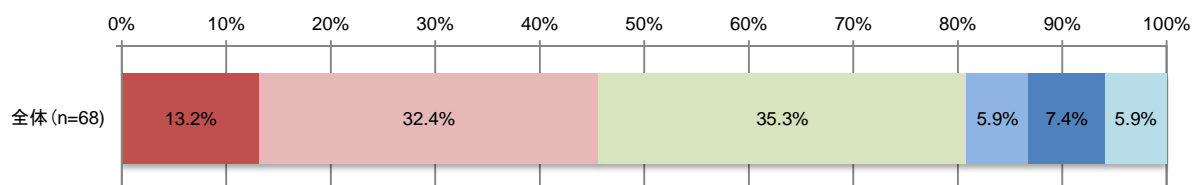
2 長野県技術専門校について

- 「どのような教育訓練を行っているか知っている」は約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」は約5割、「知らない」は約3割となっている。



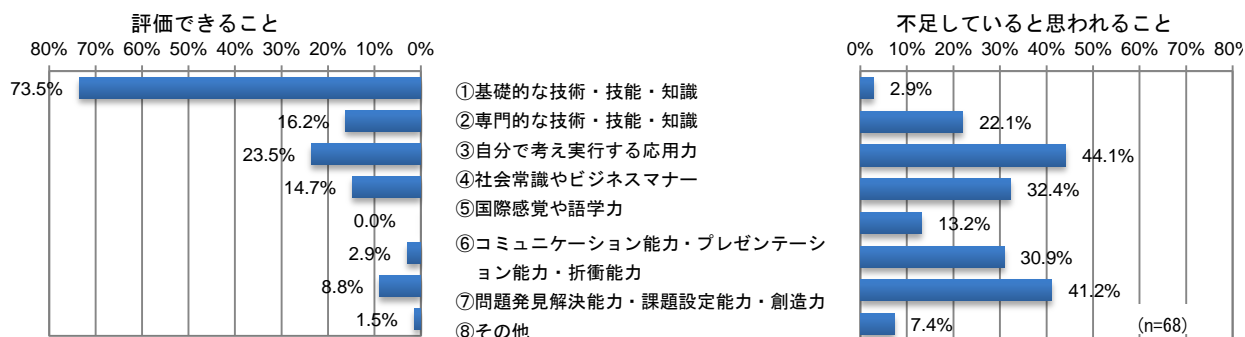
- ① どのような教育訓練を行っているか知っている
- ② 名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない
- ③ 知らない
- ④ 無回答

- 採用した修了生に対しては、約5割の事業所が「大変満足」、「やや満足」と回答している。

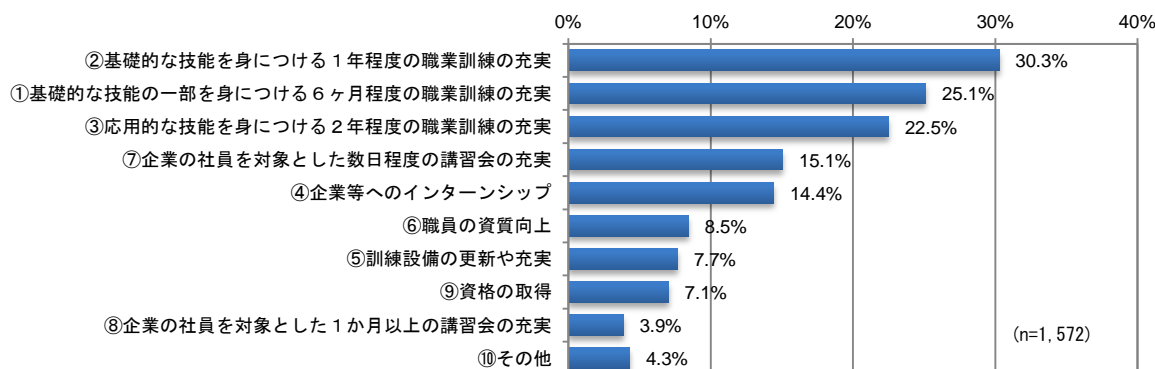


- ① 大変満足
- ② やや満足
- ③ 普通 (どちらでもない)
- ④ やや不満
- ⑤ 大変不満
- ⑥ 無回答

- 修了生について評価できることは、「基礎的な技術・技能・知識」が約7割となっている。
- 修了生について不足していると思われることは、「自分で考え実行する応用力」、「問題発見解決能力・課題設定能力・創造力」となっている。



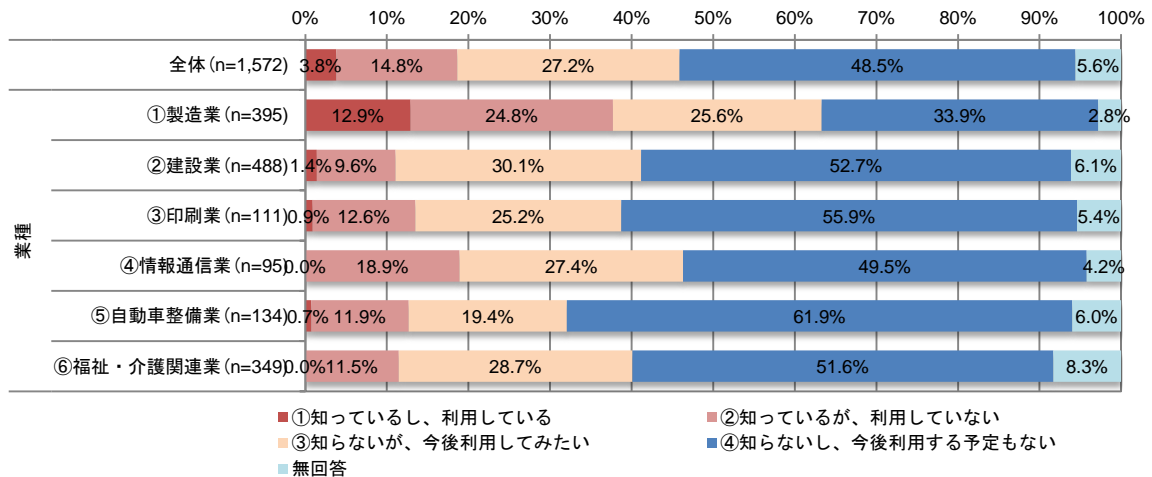
- 今後、積極的に取り組んでほしいことは、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」という回答が多い。



Ⅲ 施策の認知度

1 産業人材カレッジ・スキルアップ講座

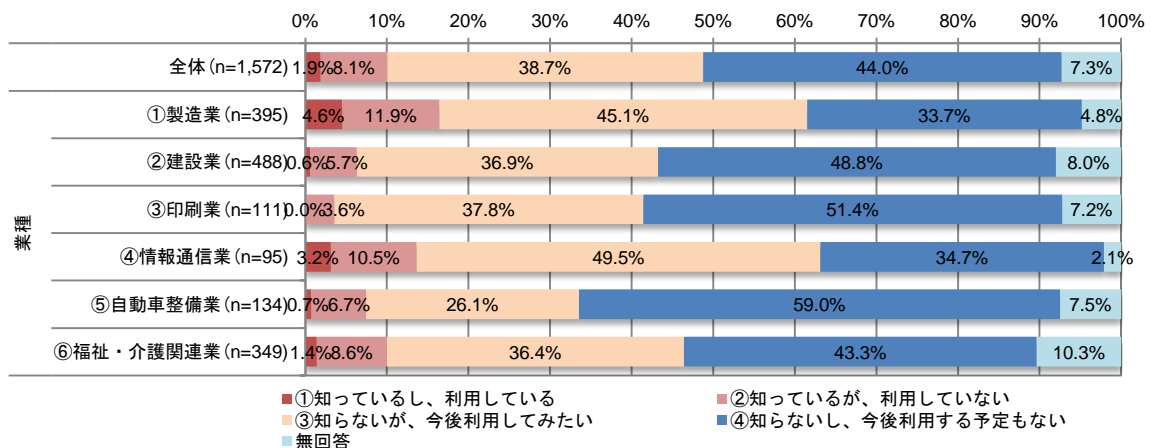
- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座について、知っている事業所は約2割、知らない事業所は約8割となっている。
- 実際に利用している事業所は3.8%、今後利用してみたいという事業所は約3割となっている。



- 知っているが利用していない理由としては、「利用したい講座がない」、「講座を受講させる時間がない」という回答が多い。
- 利用しやすいものとするため、受講料の引下げや講座内容の充実を求める声が多い。

2 産業人材育成支援センター研修情報サイト

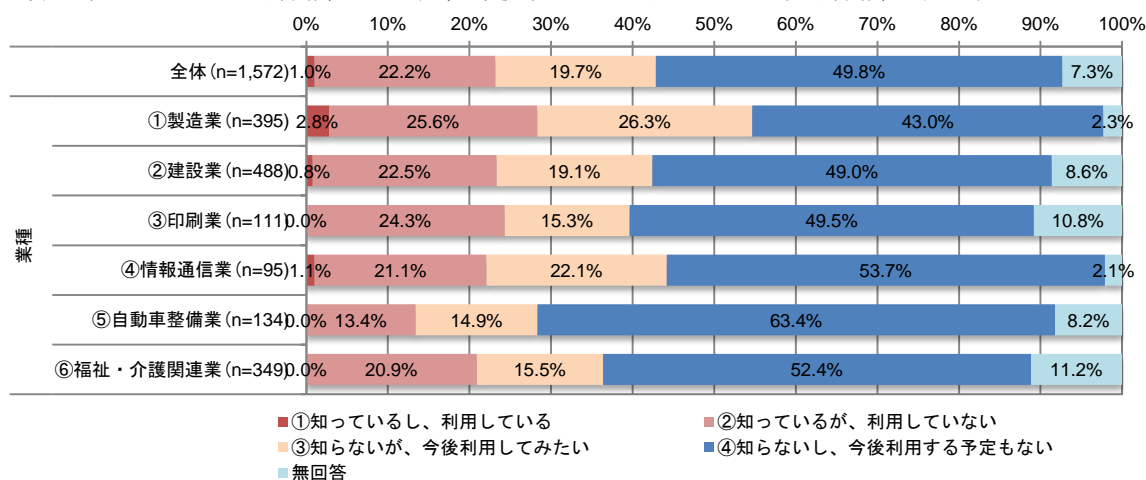
- 産業人材育成支援センター情報サイトについて、知っている事業所は約1割、知らない事業所は約8割となっている。
- 実際に利用している事業所は1.9%、今後利用してみたいという事業所は約4割となっている。



- 知っているが利用していない理由は、「知りたい情報が掲載されていない」という回答が約3割と最も多い。
- 利用しやすいものとするため、制度のPRを求める声が多い。

3 信州ものづくりマイスター制度

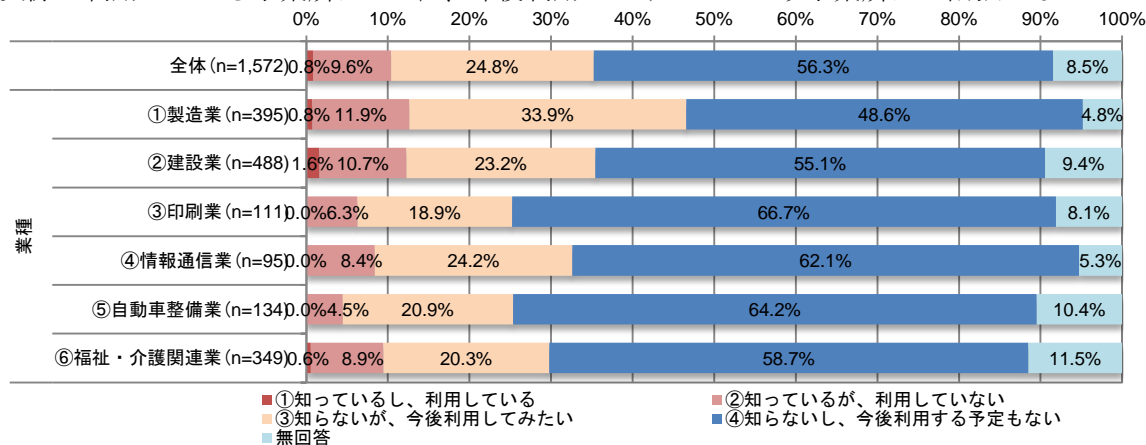
- 信州ものづくりマイスター制度について、知っている事業所は約2割、知らない事業所約7割となっている。
- 実際に利用している事業所は1.0%、今後利用してみたいという事業所は約2割となっている。



- 知っているが利用していない理由としては、「希望する職種のマイスターがない」という回答が約5割と最も多い。
- 利用しやすいものとするため、制度のPRを求める声が多い。

4 若年技能者人材育成支援等事業

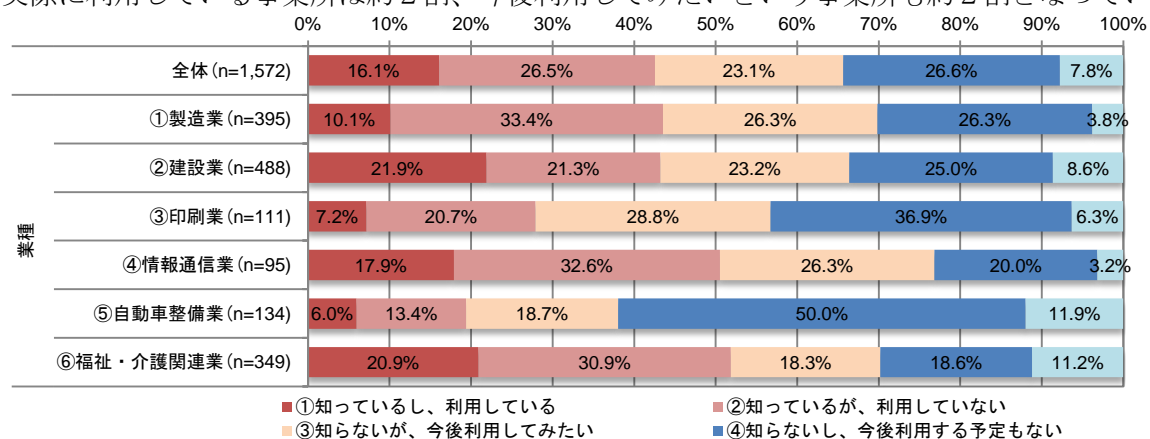
- 若年技能者人材育成支援等事業について、知っている事業所は約1割、知らない事業所は約8割となっている。
- 実際に利用している事業所は0.8%、今後利用してみたいという事業所は2割強となっている。



- 知っているが利用していない理由は、「希望する職種のマイスターがない」という回答が約6割と最も多い。
- 利用しやすいものとするため、制度のPRを求める声が多い。

5 各種助成金

- 各種助成金について、知っている事業所は約4割、知らない事業所は約半数となっている。
- 実際に利用している事業所は約2割、今後利用してみたいという事業所も約2割となっている。

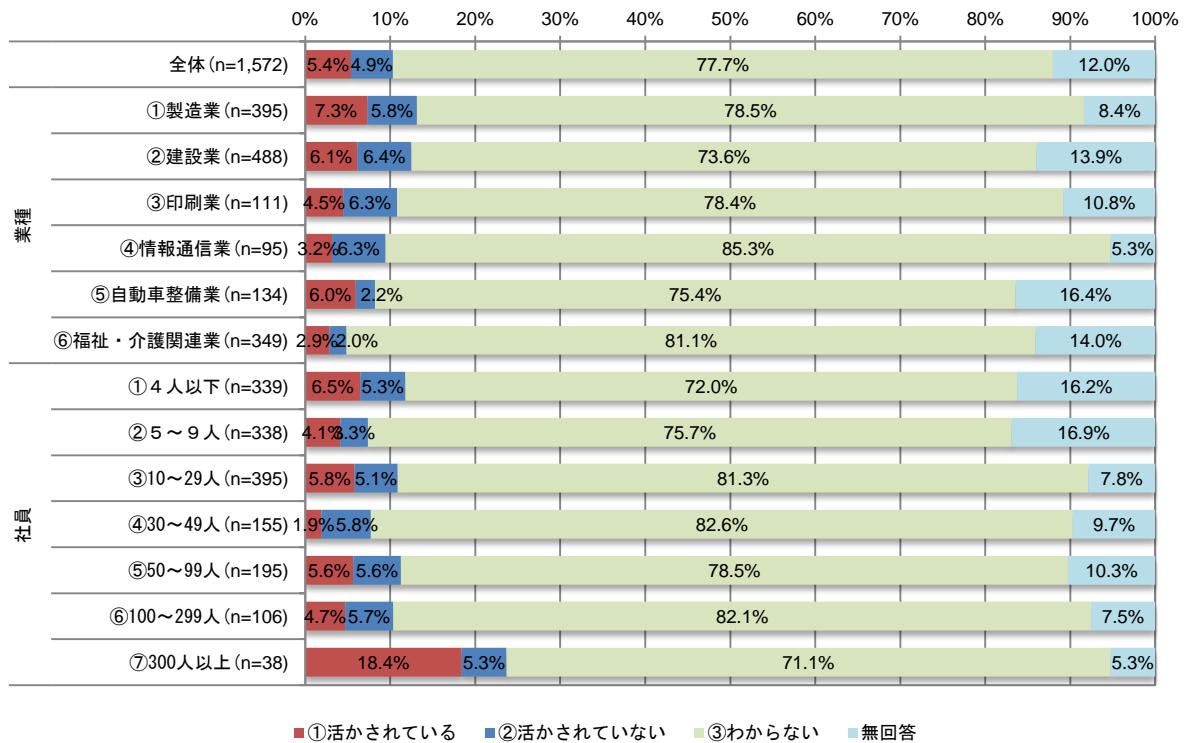


- 知っているが利用していない理由としては、「手続きが面倒」、「助成金に該当する訓練を実施していない」という回答が多い。

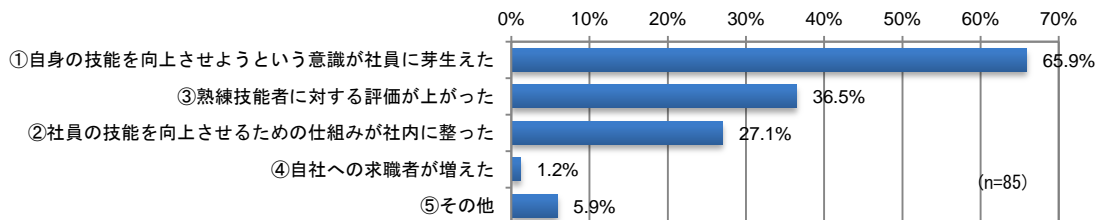
IV 技能尊重気運の醸成

1 「技能五輪全国大会・アビリンピック 2012」が長野県で開催されたことについて

- 「技能五輪全国大会・アビリンピック 2012」の取り組みによる成果が活かされているかについて、「わからない」が約8割、「活かされている」という回答は、5.4%となっている。

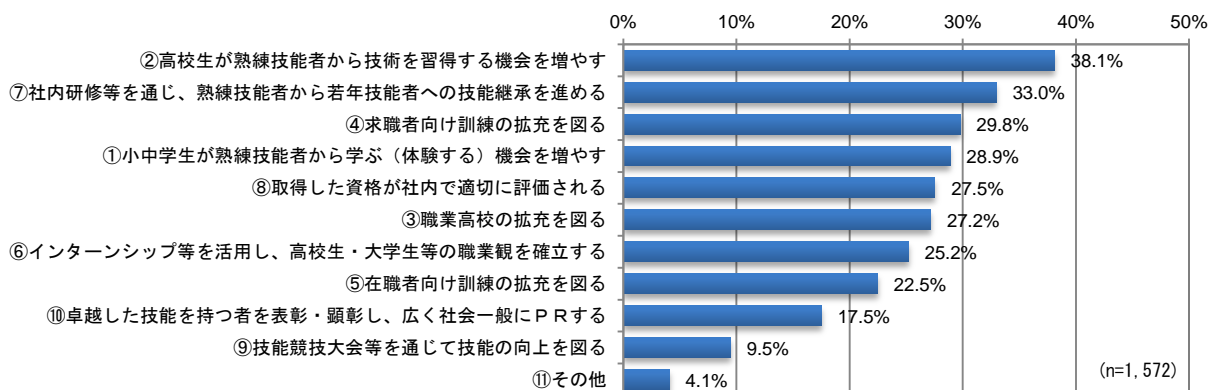


- 「活かされている」と感じている内容は、「自身の技能を向上させようという意識が社員に芽生えた」という回答が約7割と最も多い。



2 技能が尊重される社会を実現するために

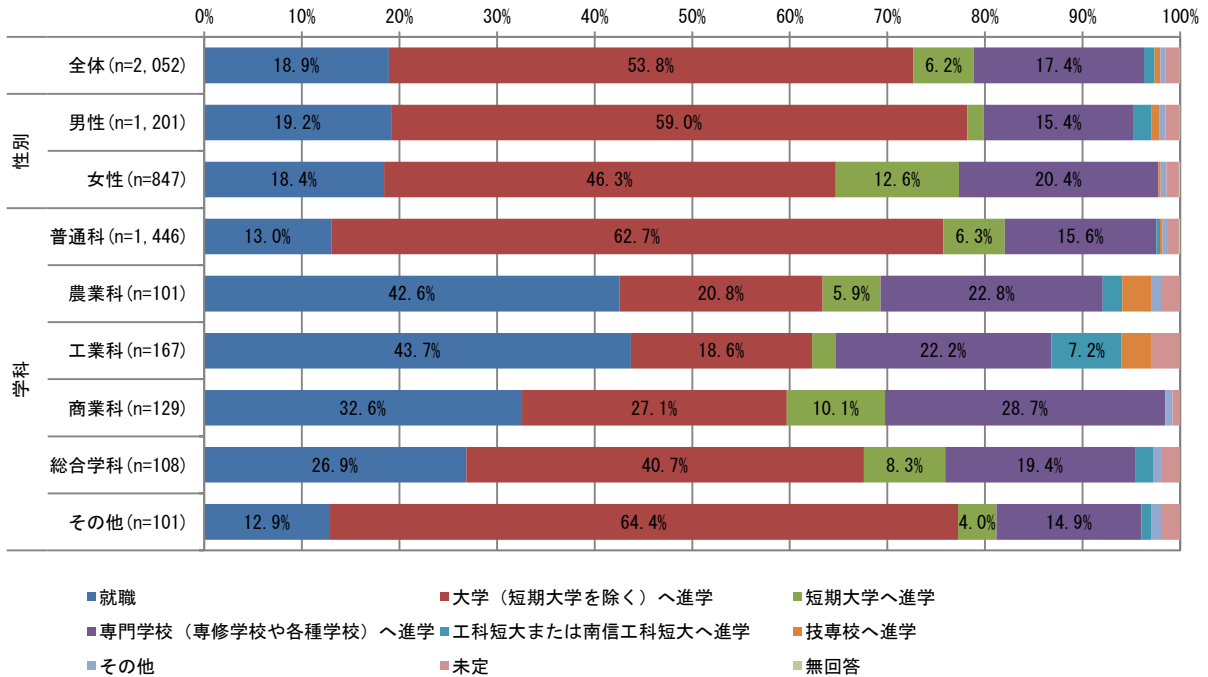
- 技能が尊重される社会を実現するために、「高校生が熟練技能者から技術を習得する機会を増やす」という回答が約4割と最も多い。



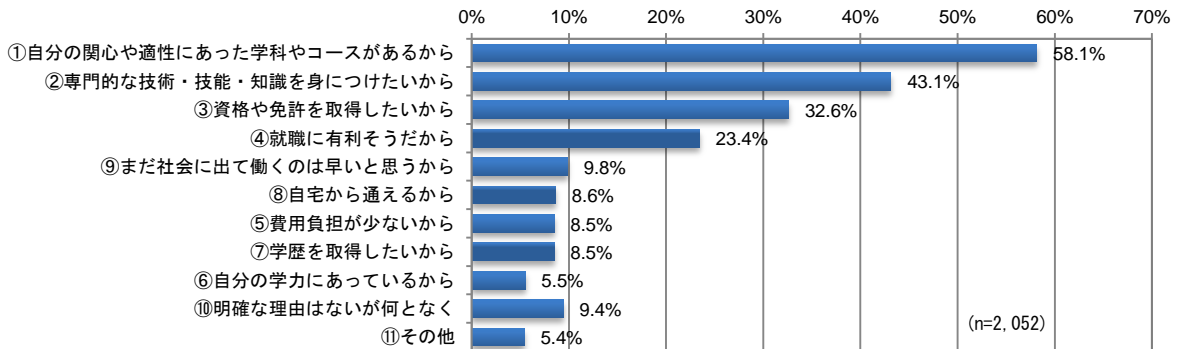
【高校生調査】

1 進路について

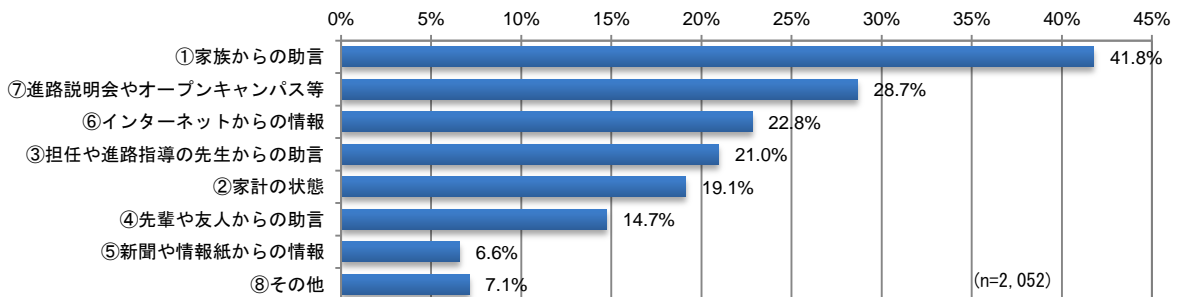
- 現在希望している卒業後の進路は、全体では「大学（短期大学を除く）」という回答が約半数と最も多い。学科別にみると、工業科、農業科では、「就職」が約4割となっている。



- 進路を決めた理由は、全体では「自分の関心や適性にあった学科やコースがあるから」が約6割と最も多い。一方、工業科では、「専門的な技術・技能・知識を身につけたいから」という理由が約6割となっている。

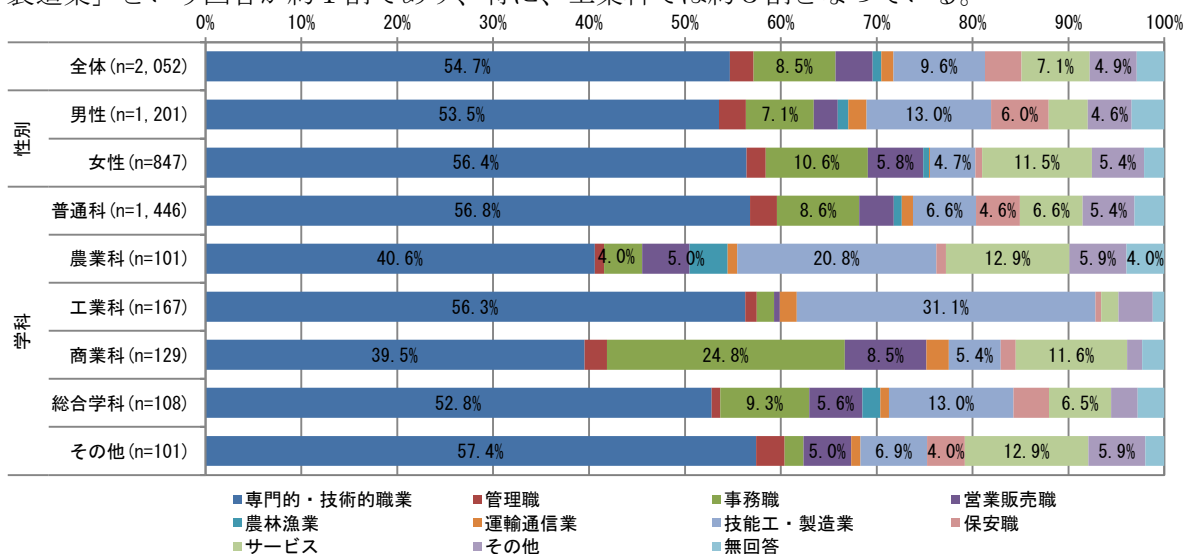


- 進路を選択するにあたり、大きく影響を受けたことは、「家族からの助言」が約4割となっている。

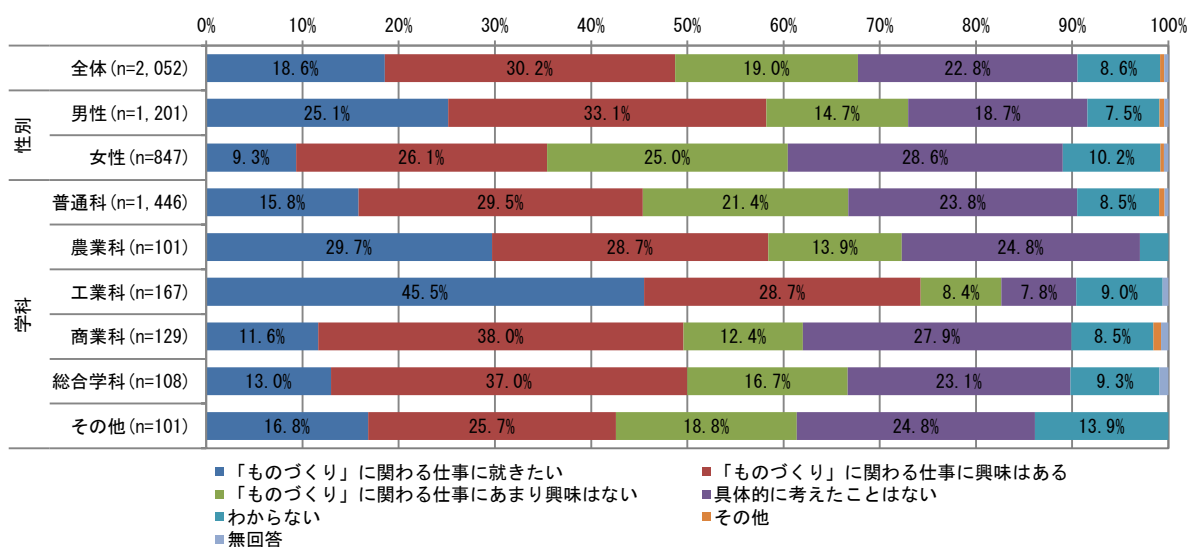


2 職業について

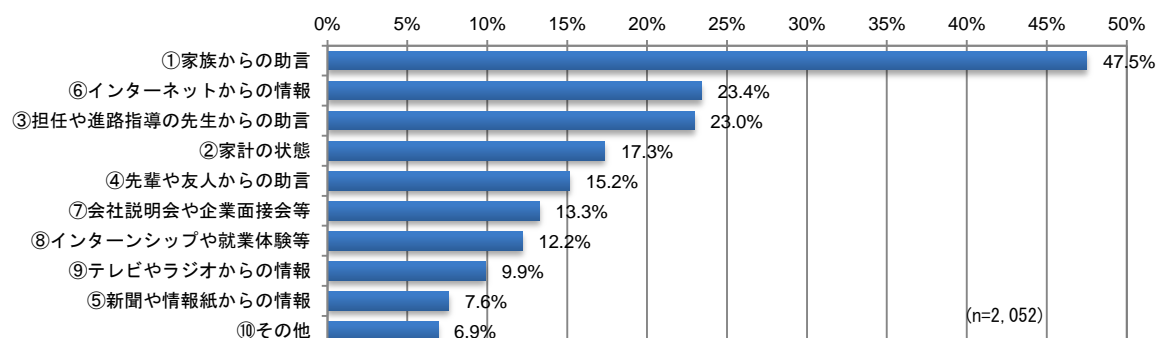
- 将来、就きたい職業は、「専門的・技術的職業」という回答が約6割と最も多い。次に「技能工・製造業」という回答が約1割であり、特に、工業科では約3割となっている。



- 将来、仕事に就く際に重要となることは、「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・折衝能力」、「専門的な技術・技能・知識」という回答が約6割となっている。
- ものづくりに関わる仕事に就きたい、興味はあるという回答は、約5割となっており、特に、工業科では7割を超えている。



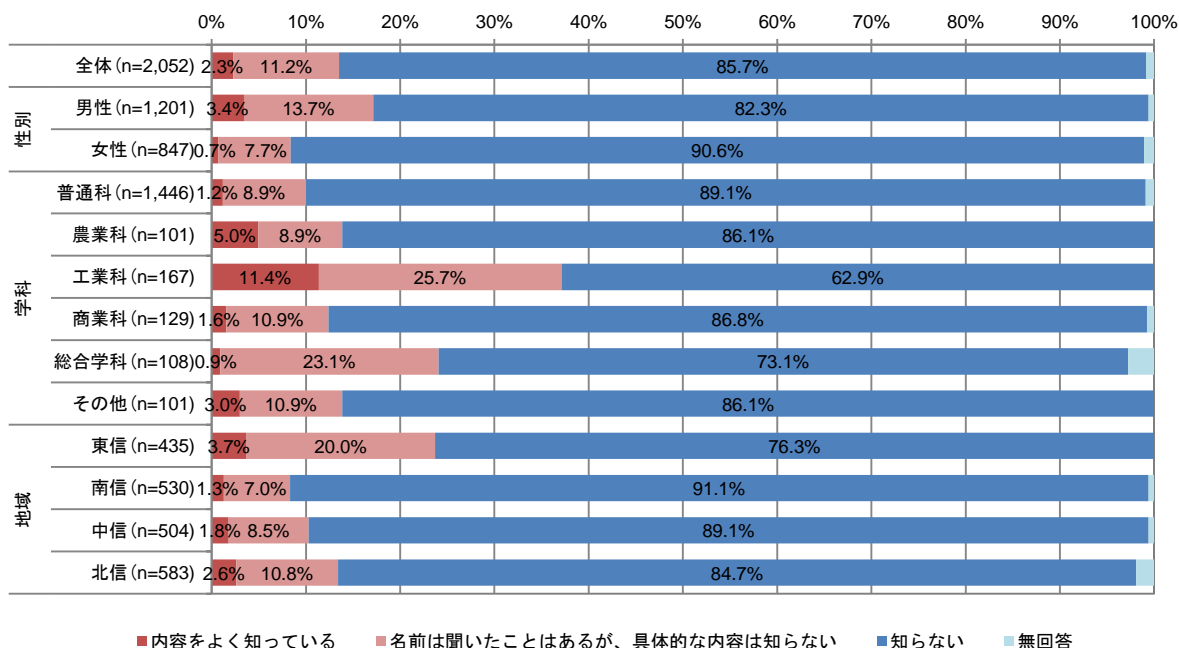
- 仕事の選択にあたり、大きく影響を受けたこと、今後影響を受けると思われることは、「家族からの助言」が約5割と最も多い。



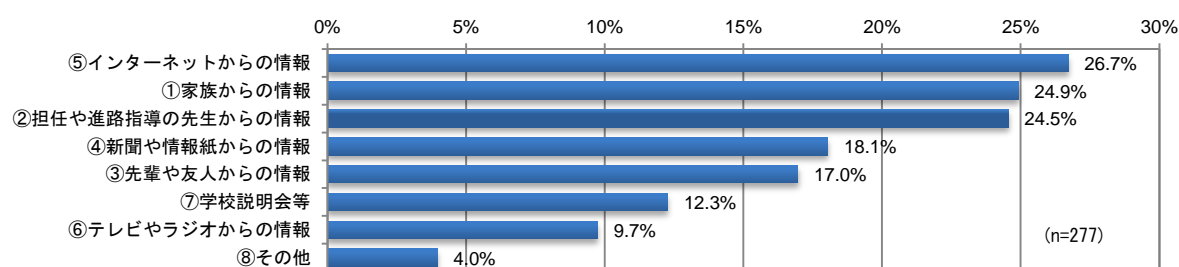
3 工科短大について

(1) 工科短大（上田市）

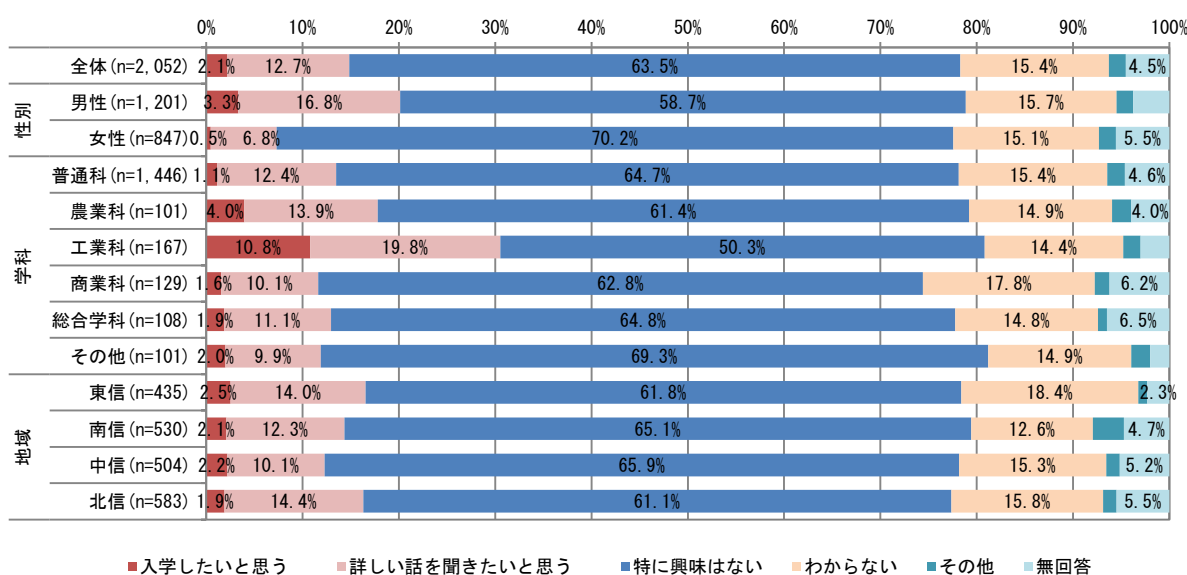
- 「内容をよく知っている」は2.3%、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」は約1割、「知らない」は約9割となっている。



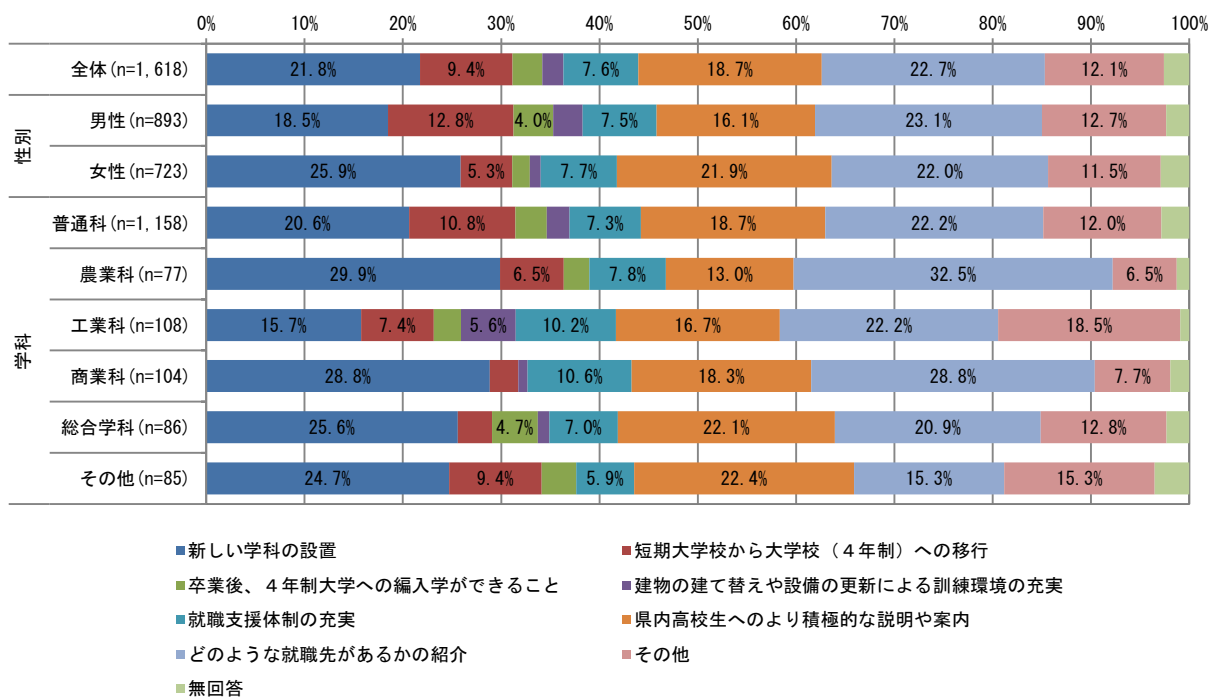
- 知ったきっかけは、「インターネットからの情報」、「家族からの情報」、「担任や進路指導の先生からの情報」という回答がそれぞれ約4分の1となっている。



- 「入学したいと思う」という回答は2.1%、「詳しい話を聞きたい」という回答は約1割となっている。

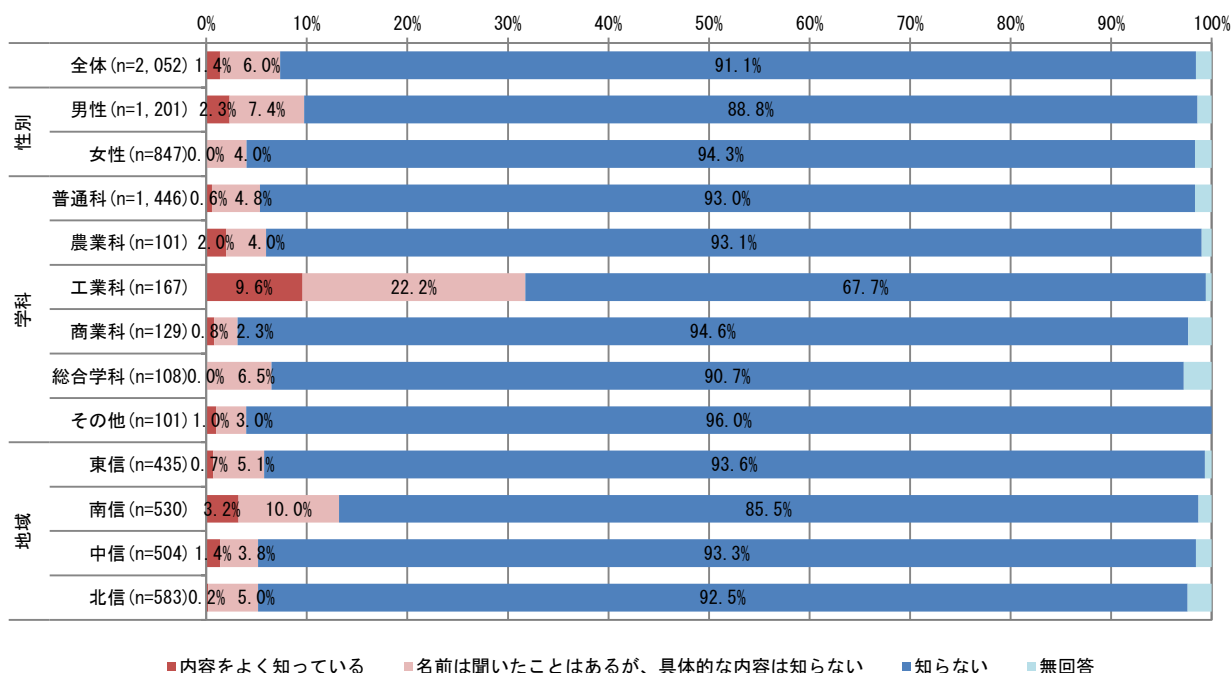


- 興味がないと回答した高校生に改善点を聞くと、「どのような就職先があるかの紹介」、「新しい学科の設置」、「県内高校生へのより積極的な説明や案内」という回答がそれぞれ約2割となっている。

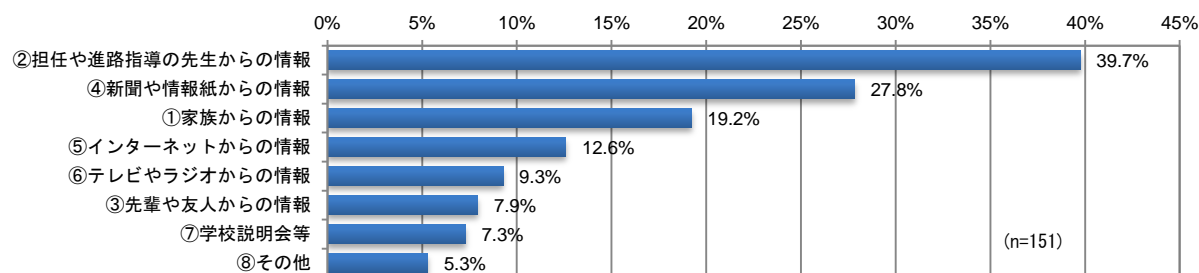


(2) 南信工科短大（上伊那郡南箕輪村）

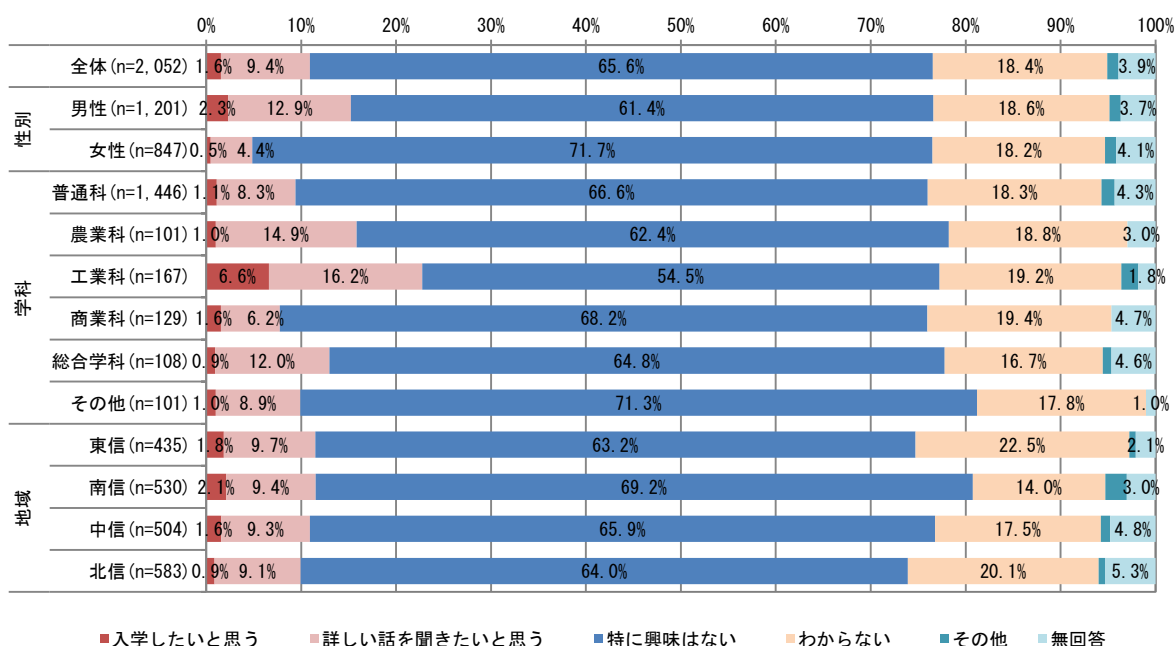
- 「内容をよく知っている」は1.4%、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」は6.0%、「知らない」は約9割となっている。



- 知ったきっかけは、「担任や進路指導の先生からの情報」が約4割と最も多い。

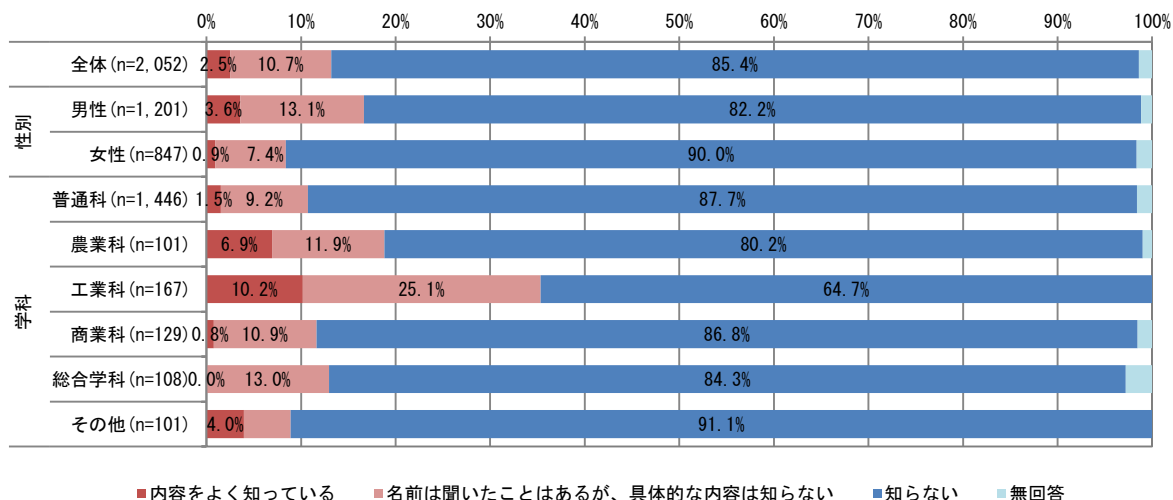


- 「入学したいと思う」という回答は1.6%、「詳しい話を聞きたい」は約1割となっている。

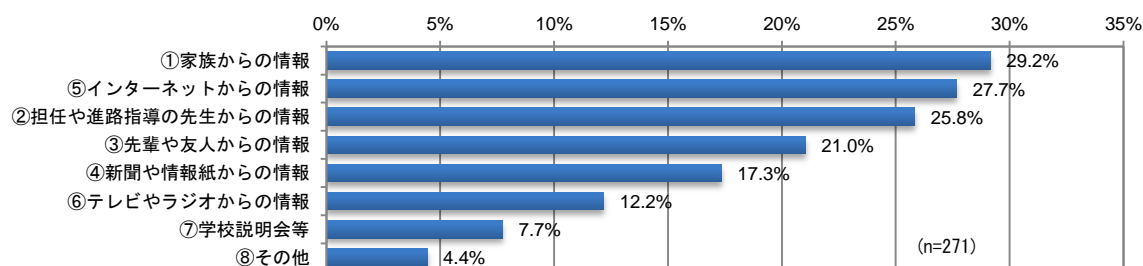


4 技専校について

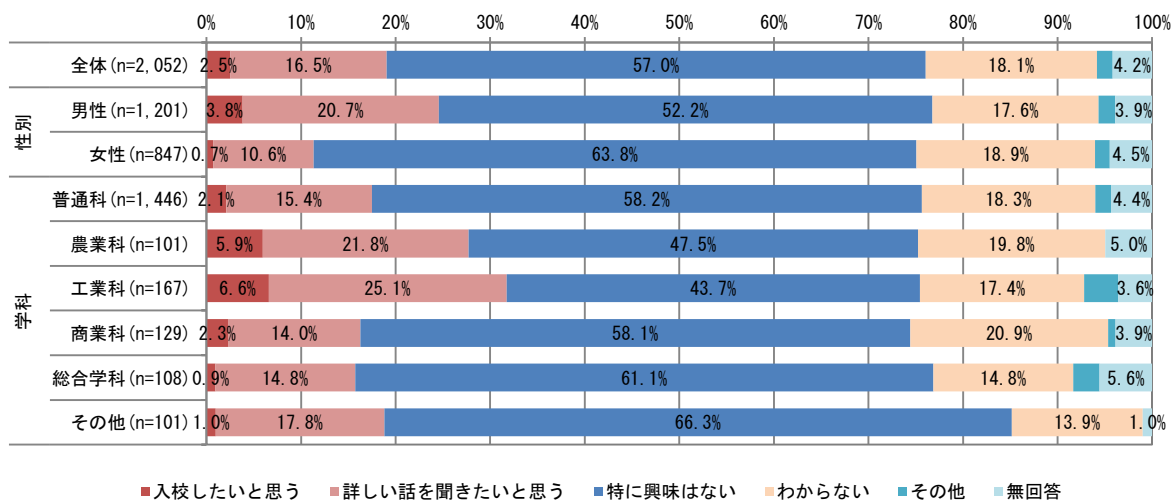
- 「内容をよく知っている」は2.5%、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」は約1割、「知らない」は約9割となっている。



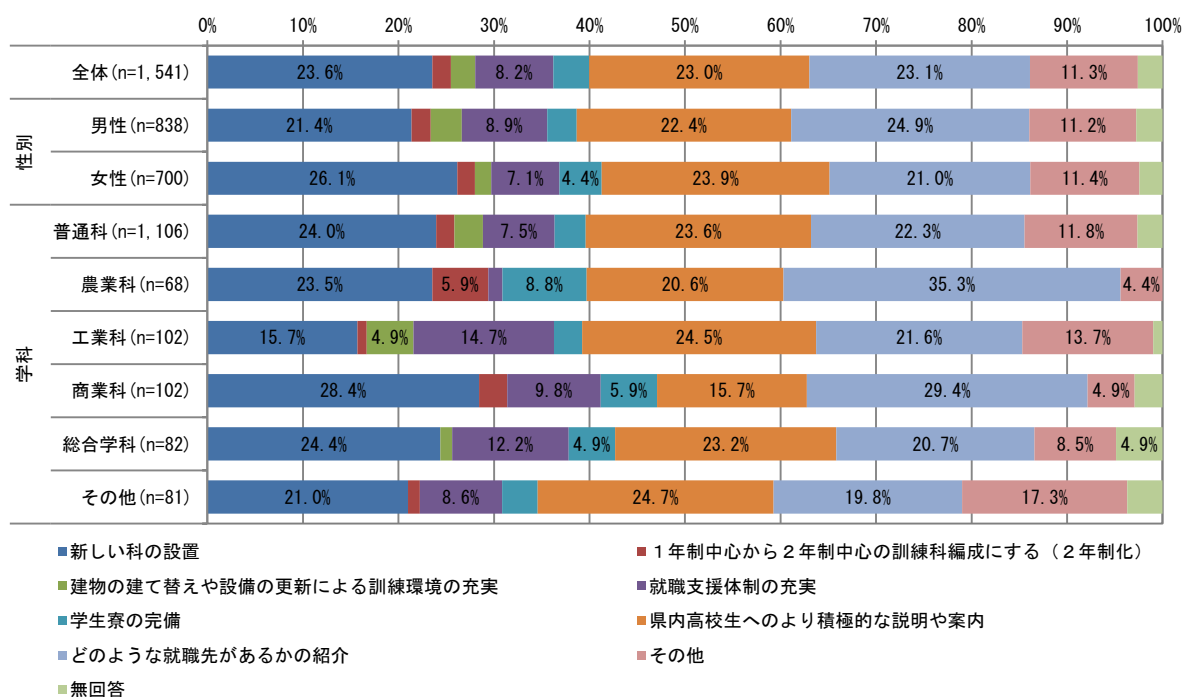
- 知ったきっかけは、「家族からの情報」、「インターネットからの情報」、「担任や進路指導の先生からの情報」がそれぞれ約3割となっている。



- 「入校したいと思う」という回答は2.5%、「詳しい話を聞きたい」という回答は約2割となっている。



- 興味がないと回答した高校生に改善点を聞くと、「新しい学科の設置」、「どのような就職先があるかの紹介」、「県内高校生へのより積極的な説明や案内」という回答がそれぞれ約2割となっている。

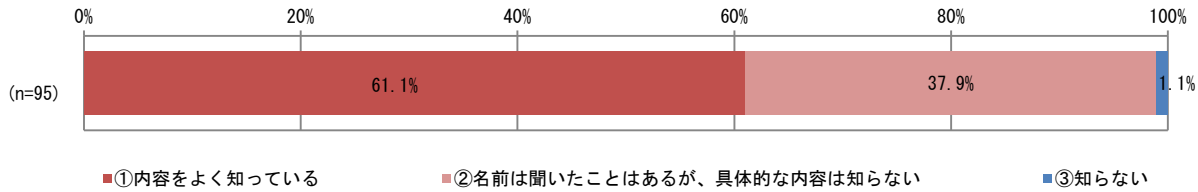


【高校進路指導担当調査】

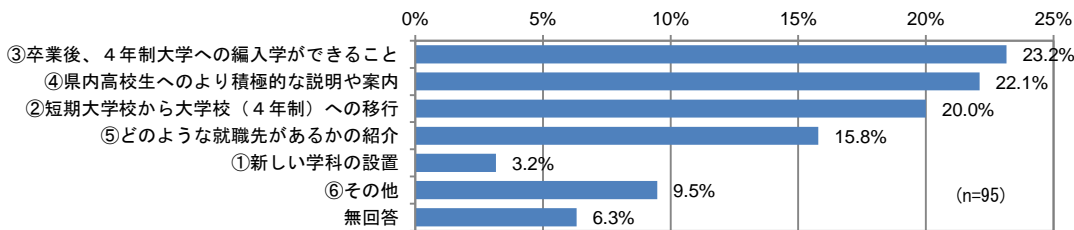
1 工科短大について

(1) 工科短大（上田市）

- 「内容をよく知っている」という回答が約6割、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」という回答が約4割となっている。

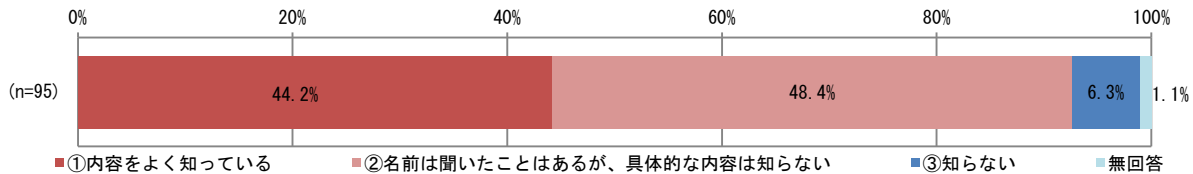


- 進学については、「生徒が希望すれば勧めている」という回答が約7割、「積極的に勧めている」という回答は約2割となっている。
- 改善点については、「卒業後、4年制大学への編入学ができること」が最も多く、次に「県内高校生へのより積極的な説明や案内」、「短期大学から大学（4年制）への移行」となっている。



(2) 南信工科短大（上伊那郡南箕輪村）

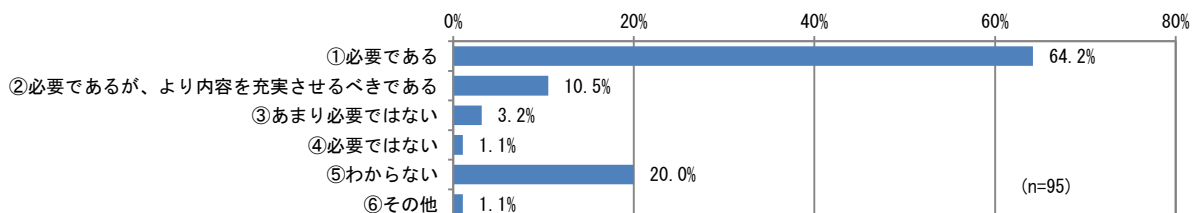
- 「内容をよく知っている」という回答が約4割、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」という回答が約5割となっている。



- 進学については、「生徒が希望すれば勧めている」という回答が約6割、「積極的に勧めている」という回答が約1割となっている。

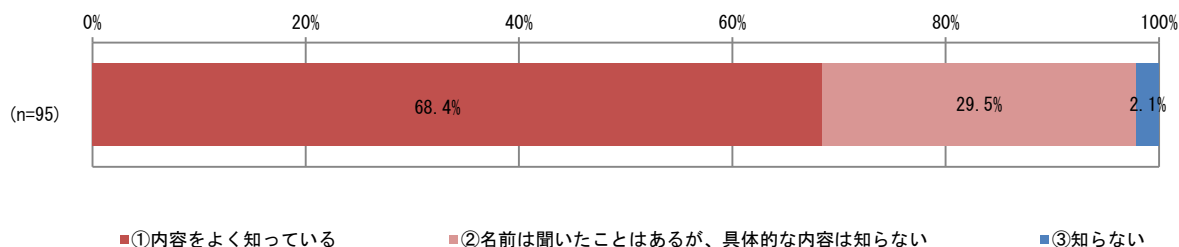
(3) 工科短大全体

- 高校生の進路先としての工科短大、南信工科短大については、必要であるという回答が7割を超えているが、約1割はより内容を充実させるべきであると回答している。



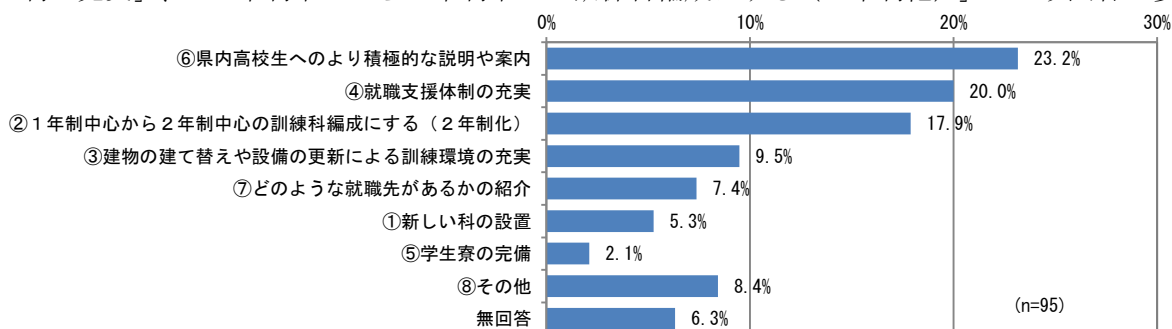
2 技専校について

- 「内容をよく知っている」という回答は約7割、「名前は聞いたことはあるが、具体的な内容は知らない」という回答は約3割となっている。



- 進学については、「生徒が希望すれば勧めている」という回答が約7割、「積極的に勧めている」という回答は約1割となっている。

- 改善点については、「県内高校生へのより積極的な説明や案内」が最も多く、次に「就職支援体制の充実」、「1年制中心から2年制中心の訓練科編成にする（2年制化）」という回答が多い。



- 高校生の進路先としての技専校については、必要であるという回答が7割を超えているが、約1割はより内容を充実させるべきであると回答している。

